

これからの患者が求め、来院する病院の経営戦略と実践
～よくわかる病院機能評価認定（新規、更新）のポイントとメリット～

病院機能評価認定（新規：Ver.5.0）のポイントとメリット ～よくわかる病院機能評価認定（新規、更新）のポイントとメリット

手島 厚 (医弘仁会共立病院 事務長)

当院は、本年 4 月に初めて病院機能評価を受審しました。病院機能評価の意義や必要性は随分以前から認識していましたが、取り組みが遅れた原因は、一部ハード面の不備があったことも一因ですが、最大の要因は職員が積極的にならなかったことです。

当院のような中小病院に共通する欠点は、院内のルールやシステムがほとんど自院独自に作られ、しかも、それが病院管理者や一部の幹部の主導によることが多いことです。さらに、一旦作られるとその後の評価・見直しが行われず、レベルアップが期待されません。また、常日頃、外部からの情報を積極的に得ようとする取り組みも不十分なため、旧態依然とした体制が今でも多く残されています。したがって、まだまだチーム医療という意識も十分には確立されておられません。

そのような状況で、約 1 年間の準備期間を経て本審査を受けるに至りましたが、結果は改善を指摘された評価項目はなく、無事すんなりと認定をいただくことができました。当然のことながら、職員はその結果には大満足で、同時に大きな自信に繋がったようですが、職員が実感した病院の改善効果は、むしろそれまでの準備期間中に経験したことのほうが大きかったようです。もちろん、それが病院機能評価の受審による最大のメリットではありますが、シンポジウムでは、それら自院で確認された病院機能評価受審による改善効果について、具体的に紹介させていただきます。